

スポーツサイエンスの“実践”と“探求”

学  
報

# 日体大

未来

スポーツ

の

[特集]

キーワードから読み解く

**オリンピックの理念・未来**

巻頭インタビュー:

2026ミラノ・コルティナオリンピックに  
出場する日体大アスリートたち

82号

2026. WINTER

特集 | FEATURE

キーワードから読み解く  
**オリンピックの理念・未来**

P.02 [巻頭アスリートインタビュー]

体现者 - Nittai PRIDE -

2026ミラノ・コルティナオリンピックに出場する

**日体大アスリートたち**

P.07 最強の伴走者 - 高木 美帆を支えた人 -

スケート部 部長 **青柳 徹**

P.09 [特集 | Sports × Olympics]

キーワードから読み解く

**オリンピックの理念・未来**

オリンピックスポーツ文化研究所 所長

スポーツマネジメント学部 スポーツライフマネジメント学科

依田 充代 教授

P.15 [ PICK UP! ]

気になる 研究室のぞいてみた

**KIKULAB**

体育学部 体育学科 菊池 直樹 教授

P.17 大学の現場から

キャリアセンターの取り組み ~教職編~

P.23 さまざまなフィールドで輝く「日体人」を紹介!

“日体魂”のDNA

望月 風歌 さん

平成31年度 体育学部 卒業

瀧 博行 さん

スポーツマネジメント学部 4年

松本 開花 さん

スポーツ文化学部 4年

P.13 スポーツ科学の最先端レポート

**研究最前線**

from 大学院体育学研究科長 関根 正美 教授

P.25 INFORMATION Corner

Info.1 第62回 体育研究発表実演会を  
開催しました

Info.2 日体大フェスティバル2025  
大盛況のうちに無事閉幕

スポーツサイエンスの“実践”と“探求”

**日體大**

体現者 - Nittai PRIDE -

# 2026 Milano Cortina

オリンピック・パラリンピック特集

第25回

オリンピック  
冬季競技大会

(2026/ミラノ・コルティナ)

パラリンピック  
冬季競技大会

2026年冬季オリンピック・パラリンピックは、イタリア北部のミラノとコルティナ・ダンペッツォで開催されます。文化やビジネスの中心地ミラノと、自然豊かな山岳リゾート地であるコルティナ。二都市による共同開催はオリンピック史上初めての試みで、

それぞれの魅力を活かした新しい大会の形として注目を集めています。今回の大会で世界のトップアスリートたちが挑むのは、新競技1つを含むオリンピック16競技とパラリンピック6競技。氷と雪の舞台で、熱戦が繰り広げられます。

# 2026 Milano Cortina

オリンピック・パラリンピック特集

Takanashi  
Sara

Ski Jumping

Totsuka Yuto

Snowboard

Igarashi  
Runa

Freestyle Skiing

Igarashi  
Haruto

Freestyle Skiing

Takagi Miho

Speed Skating

Miki Tsubaki

Snowboard

2026ミラノ・コルティナオリンピックに出場する

## 日体大アスリートたち

日体大はこれまでも数々のオリンピック・パラリンピアンを輩出してきた。前回、2022年の北京大会における日本のメダル獲得数は18個。そのうちの4個に本学関係者が貢献した。今回のミラノ・コルティナ大会ではさらなる高みを目指し、日体大アスリートたちが世界に挑む。本特集では注目の選手をピックアップ。重ねてきた鍛錬の日々や、4年に一度の大舞台に懸ける熱い思いに迫る。

スノーボードの魅力は「自由であること」。  
総合力と技術力を武器に、  
金メダル獲得を目指す

スノーボード

Snowboard

# Totsuka Yuto



(写真提供:共同通信社)

## 戸塚 優斗

日本体育大学 体育学部 体育学科  
4年。平成13年9月27日生まれ。神奈川相模原(私立)高等学校出身。

【主な戦績】

2025-2026ワールドカップ ハーフパイプ第1戦(中国):2位、第2戦(アメリカ):2位、第4戦(アメリカ):優勝。ザ・スノーリーグシーズン1第1戦(アメリカ):優勝、第2戦(中国):2位。

### 3度目の大舞台 理想のルーティンを決めて 頂上へ

ミラノ・コルティナ大会は、自分にとって平昌・北京に続く3回目のオリンピックとなります。過去2大会では満足いくパフォーマンスができず、非常に悔しい思いをしました。その分、今大会こそは理想のルーティンを決めて金メダルを掴みたいという気持ちが一層強まっています。ただ、周囲の選手たちが目指すところもちろん同じ。特にここ数年は、大会で繰り出される技の難易度が一段と高くなっているうえ、技の幅も広がってきていると感じます。そんなライバルたちを見ていると、金メダルへの思いが強いあまり、心の余裕がなくなってしまうことも。オリンピックはハイレベルな戦いになりますが、何

よりも、焦らずにコンディションを整えることが肝心だと考えています。

自分の武器は、全方向の回転を高いレベルでこなせる総合力と、トリプルコークや1620といった難易度の高い大技を組み込める技術力。本番ではこの強みを最大限発揮して納得のいくルーティンを決め、金メダルという結果につなげることができればうれしいです。

### 世界での活躍を通して スノーボードの魅力を広めたい

日体大は競技に取り組む学生への理解が深く、トレーニング方法などの競技に役立つ知識を学ぶことができる大学だと実感しています。学んでいることを実践に活かしながら、学生としてもアスリートとしても、成長を続け

ていきたいです。

競技以外での目標としては、スノーボードの魅力をもっと多くの人に向けて発信したいと考えています。スノーボードの醍醐味は、他のどんな競技よりも「自由」であること。自分が考えたルーティンを形にして、それがオリジナリティとして評価される場所に、唯一無二の面白さとやりがいがあります。メジャーな競技と比べるとまだリアルタイムで見えていただける機会が少ないですが、自分たちの世代が世界で活躍することによって、これからさらに盛り上がってほしいと願っています。

最後に、いつも応援してくださっている方々に心からの感謝を伝えたいです。これからも皆さんの声援に応えられるように、日々努力し、挑戦を続けようと思っているので、ぜひ応援のほどよろしくをお願いします。

スピードスケート

Speed Skating

# Takagi Miho

自分らしい滑りを追求し、  
誇りと感謝を胸に  
世界と戦う



(写真提供:共同通信社)

## 高木 美帆

日本体育大学体育学部卒業。TOKIO  
インカラム所属。平成6年5月22日  
生まれ。北海道出身。

【主な戦績】

第93回全日本スピードスケート選手  
権大会 1000m:優勝、1500m:優  
勝。スピードスケート・ワールドカッ  
プ2025-2026 第4戦(ノルウェー)  
1000m:優勝、1500m:優勝。

### 常に挑戦を続け 歩みを止めなかった 4年間

前回出場した、2022年の北京大会からおよそ4年。この4年間は新しいことにチャレンジし続け、自分にとって今までで一番変化の多い期間でした。良い方向への変化ばかりではありませんでしたが、常に歩み続けてきた4年間だったと感じています。今回のミラノ・コルティナ大会は4度目のオリンピック。この特別な舞台上で戦えることに対する誇りと感謝の気持ちを胸に、最後まで挑み続けたいと思います。

目下の課題は、自分らしいスケートティングを完遂する力をつけることです。やりたいことは少しずつ形になってきているものの、まだ何か足りない

と感じており、それを見つけるために日々試行錯誤しています。普段の練習では、基礎や体の使い方などを振り返る時間を十分に取つつ、あえてハードなトレーニングも繰り返し行うようにしています。こうすることで、効率の良いスケートティングの仕方や疲労が溜まってからの滑り方を体に覚えさせることができます。

今はまず、このシーズンを乗り越えることに全力を注いでいます。その後のことはシーズンが終わってからゆっくり考えたいと思っていますが、何をやるにしても、新しいことへ積極的に挑戦していきたいです。

### 日体大での経験が 困難に直面した時の支えに

在学時に所属していたクラスでは、

高い志を持って競技スポーツに向き合っている学生が多く、たくさんの良い刺激を受けました。また、スピードスケートは遠征が多い競技ということもあり、学業との両立に悩むこともありましたが、それを理解して応援し、支えてくださる先生方がいたことも大変ありがたかったです。恵まれた環境だったと感じます。

振り返ると、日体大で学んだことや出会った人々、過ごした時間のすべてが今の自分の糧になっています。感謝の気持ちでいっぱいです。日体大で学んでいる皆さんにはぜひ、今しかない貴重な大学生という期間を存分に味わってほしいと思います。全力で楽しんだり、悩んだりした時間は、将来の自分が困難に直面したときに、きっと支えになってくれるはずです。応援しています。

# 競技紹介

- 冬季オリンピック・パラリンピック -

## オリンピック競技



アルペンスキー  
ALPINE SKIING



クロスカントリースキー  
CROSS-COUNTRY SKIING



スキージャンプ  
SKI JUMPING



ノルディック複合  
NORDIC COMBINED



フリースタイルスキー  
FREESTYLE SKIING



スノーボード  
SNOWBOARD



スピードスケート  
SPEED SKATING



フィギュアスケート  
FIGURE SKATING



ショートトラック  
SHORT TRACK  
SPEED SKATING



アイスホッケー  
ICE HOCKEY



ボブスレー  
BOBSLEIGH



スケルトン  
SKELETON



リュージュ  
LUGE



カーリング  
CURLING



バイアスロン  
BIATHLON



山岳スキー  
SKI MOUNTAINEERING

## パラリンピック競技



アルペンスキー  
ALPINE SKIING



クロスカントリースキー  
CROSS-COUNTRY SKIING



スノーボード  
SNOWBOARD



アイスホッケー  
ICE HOCKEY



車いすカーリング  
WHEELCHAIR CURLING



バイアスロン  
BIATHLON

# PICK UP



## SKI MOUNTAINEERING

【山岳スキー】

### 新競技「山岳スキー(スキーモ)」とは?

本大会から新しくオリンピックに追加される競技、山岳スキー(通称スキーモ)。Ski Mountaineeringの略語であるスキーモは、その名の通りスキーと登山を掛け合わせたような競技です。選手は雪山に設けられたコースを登り降りしながら、ゴールまでのタイムを競います。コース内にはスキー板に滑り止めを付けて登る区間と滑走する区間が定められているほか、一部の急な斜面や岩場などでは、スキー板を外してブーツで歩行する区間も。本来は雪山で数時間かけて行われることもあるスキーモですが、今回の大会で実施されるのはゲレンデにて短時間で行われる「スプリント」と「混合リレー」。スキーモの要素が凝縮された、スピーディーな展開から目が離せません。



## 最強の伴走者

— 高木 美帆を支えた人 —



スケート部 部長

## 青柳 徹

## PROFILE

元スピードスケート選手。スポーツマネジメント学部教授。スポーツマネジメント学科 学科長。日本体育大学卒業後、東芝スケート部に所属。冬季オリンピック4大会に日本代表として出場。

## INTERVIEW

私が高木美帆と初めて会ったのは、彼女がまだ14歳の頃。兄である高木大輔が先に日体大スケート部への進学を検討しており、その進路相談のため実家に伺った時でした。そこでは言葉こそ交わすことはなかったのですが、彼女の目力は年齢に似つかわしくないほど強かったことを、今でも鮮明に覚えています。物怖じする様子はなく、静かに相手を見据えるその視線に、「この子は只者ではない」そう強く感じました。

ただ、当時女子のトップ選手は実業団に進むのが一般的でした。私自身も大学教員という立場上、常に帯同できる専任コーチではない。だからこそ、彼女に対しては最初から「大学に来れ

ば必ず結果が出る」といった安易な言葉は使っていませんでした。

しかしその後、兄に続き美帆も私のもとで競技に取り組むことになりました。私の指導スタイルである、才能や実績の有無で接し方を変えないことが彼女やご家族にも共感してもらえたのではないかと思います。「公平性」を長年の指導の軸にしてきた姿勢が結果として、大学進学を考える一つの安心材料になったのだとすれば、指導者としてこれ以上のことはありません。

入学後、私が最も強く感じたのは、彼女の集中力の質でした。技術や体力の高さは言うまでもありませんが、それ以上に、一つの課題に深く入り込み、納得するまで考え抜く力が際

立っていました。練習でも話し合いでも、表面的に理解して前に進むことはせず、自分の中で腑に落ちるまで立ち止まる。その姿勢は、ときに頑固に見えることもありましたが、裏を返せば、それだけ競技と真剣に向き合っている証でもありました。一方で、中学生でオリンピックを経験したことが、無意識のうちに自分自身を「中堅選手」と位置づけてしまっていた面もあったと感じています。高校時代の成績が右肩上がりではない現実の中で、このままでいいのかという問いに、本人も十分に向き合いきれていなかった。私自身、そのまま次のオリンピックに出場してもこの迷路から脱却できないと感じていました。そんな違和



HEAD COACH



SPEED SKATER



才能も過去の栄誉も関係ない。  
学生一人ひとりと  
本気で向き合うことを貫く。  
その信念が、アスリートを磨く。

感がはっきりと形になったのが、平成26年のソチオリンピック選考会での代表漏れ。期待されていた分、周囲の厳しい声が私にも届きました。指導者である私としてもかなり堪える期間でしたが、「指導者が落ち込んでどうする」という励ましの言葉に助けられ、彼女と本気で向き合い直す機会が必要だと我に返ることができました。何を変え、何を変えないのか。その線引きを、感情も含めて徹底的に話し合いました。道具の選択や調整、シーズン全体の捉え方、練習への向き合い方など、一つひとつを見直していきました。時には感情的にぶつかることもありましたが、それも含めて本音で向き合えた濃い時期だったと感

じています。そうして再出発を試みた直後に、スピードスケートのナショナルチーム化が決定。結果的に美帆を送り出す形になりましたが、本気で向き合う時間があったからこそ、彼女は再び世界の舞台で戦う準備を整えてくれたのだと思います。今後も成績や周囲の評価に振り回されることなく、最後に本人が納得できる形で競技人生を終えてくれれば、それ以上望むことはありません。指導者として、一人の人間として、高木美帆の歩みをこれからも静かに見守っていきたくと思っています。

美帆を含め、全ての学生を指導する上で私が大切にしてきたことがあります。それは、突出した才能だけを特別

扱いするのではなく、一人でも多くの学生がステップアップできるよう支えること。育てた選手が金メダルを獲ればもちろん嬉しいですが、それよりも、一人ひとりの学生に時間をかけて向き合い、着実に引き上げることを大切にしたい。そうして学生の成長を感じられた瞬間の喜びは、指導者かつ教育者だからこそその醍醐味だと思っています。日体大には、夢中になれる何かと出会うための選択肢が多く用意されています。だから、学生にはここで自分のやりたいことを見つけ、誰に何を言われても信じて突き進んでほしい。そうした熱意や努力に、私はこれからも全力で応えていきたいと思っています。

# キーワードから読み解く「**オリンピックの理念**」

世界中のトップアスリートたちが集い、そのパフォーマンスを競い合う舞台、オリンピック。スポーツの大会であるだけでなく、平和や国際交流の場、そして幾多のドラマを生み出す最高のステージでもあります。魅力あふれるオリンピックの意義を紐解いてみましょう。



## 尊重と協力の象徴として

近代オリンピックの父、ピエール・ド・クーベルタン男爵が提唱した、スポーツを礎とした人生哲学「オリंपイズム」。その中における「平和」と「平等」は、古代ギリシアの「エケケイリア（聖なる休戦）」や近代オリンピックに込めた「国際交流による相互理解」という理念に由来しています。「平和」の価値は、国や文化の違いを尊重し、多様な地域の人々が協力し共生する場を創出する点で、現代社会において大きな意義を持っています。

### ● 休戦や対話の契機に

1993年に国際連合がオリンピック期間の紛争停止を呼びかける「オリンピック休戦」決議を採択し、2000年シドニー大会では南北朝鮮が合同入場するなど、国際対話の象徴となりました。



合同で入場する韓国と北朝鮮の選手団 (2000年9月/写真提供:共同通信社)

## 連携と公平を目指して

クーベルタンが、先述の「オリंपイズム」において、「平和」とともに込めた「平等」への願い。その価値は、女性の活躍機会の拡大、人種差別の撤廃、経済的に不利な国への支援などを通して発展し、今日では男女混合種目の導入、公正な審判制度、パラリンピックとの連携など、多様な人々が公平に参加できる仕組みを示しています。



### ● 全ての人に開かれた大会へ

1900年に女性が初めて参加して以降、女性の競技機会が拡大し、2012年ロンドン大会では全参加国が女性選手を派遣しました。その後、東京2020大会では男女比がほぼ均等となり、男女混合種目も大幅に増加しました。また、パラリンピックや「オリンピック連帯 (Olympic Solidarity)」をはじめとする制度の発展によって、経済的・身体的条件にかかわらず、参加機会を拡大する取り組みが進められています。



初めて女性が参加した1900年のパリ五輪にて、金メダルを獲得したシャーロット・クーバー選手 (写真提供:Getty=共同)



PROFILE

オリンピックスポーツ文化研究所 所長  
スポーツマネジメント学部  
スポーツライフマネジメント学科

依田 充代 教授

専門はスポーツ社会学。本学がスポーツ庁より委託されたオリンピック・パラリンピックに関する学びの普及活動にも携わる。

## 【 3つのオリンピック・バリュー 】

オリンピック・バリューとは、オリンピック憲章に定められた、卓越、友情、敬意(尊重)の3つの価値のこと。アスリートだけではなく、あらゆる人が日常生活において共有し、活かすことができるものとされています。

VALUE  
1

# 卓越

Excellence

自分の能力を最大限に発揮し、技術や精神の向上を追求する態度です。勝敗だけではなく、努力や挑戦を通じた自己成長が重視され、オリンピックでは、選手が自己ベストを目指す姿勢や競技に対する真摯な取り組みとして体现されます。

VALUE  
2

# 友情

Friendship

国や文化の違いを超えて友好関係を築くことを重視する態度です。競技を通じて相互理解や信頼を深め、平和的共存の基盤を作ります。南北朝鮮の合同入場や試合後の交流など、具体的な国際交流の場で体现されます。

VALUE  
3

# 敬意 尊重

Respect

相手やルール、文化、環境を尊重する態度です。これは、競技の公正やスポーツマンシップを支える基本原則であり、多様性や平等の価値とも直結します。具体的には、フェアプレーやドーピング撲滅、パラリンピック選手への敬意が挙げられます。

豆知識



### 日体大第一号オリンピックは？

日本体育大学は、日本のオリンピック史においても重要な足跡を刻んできました。夏季大会における日体大卒業生第一号のオリンピックは、中沢米太郎氏。1928年アムステルダム大会に出場し、日本代表として世界の舞台に挑み、見事棒高跳びで6位入賞を果たしました。

また、冬季大会第一号は丸山寿明氏で、1984年サラエボ大会のノルディック複合競技に出場し21位を記録。両氏は、日体大の挑戦の歴史を象徴する存在です。

# キーワードから読み解く「未来」 オリンピックの

近代オリンピック・パラリンピックが高度化・卓越化するなかで、参加するアスリートたちには、政治的背景や商業化の影響が及ぶようになってきました。これからの時代に向けて、世界規模のスポーツの祭典はどうあるべきなのでしょう。現状をとりまく課題をキーワードで読み解きます。

政治

## 国際社会の政治的対立から、 スポーツの祭典を守るために。

オリンピック・パラリンピックは、開催国や国際社会の政治的対立の影響を受けやすく、ボイコットや政治的宣伝に利用されてしまう可能性があります。象徴的な例としては、1980年モスクワ大会や1984年ロサンゼルス大会での大規模なボイコットが挙げられます。本学の関係者もその影響を受けました。近年では選手の表現の自由について規制の一部が緩和されるなど、時代に応じた変化が見られますが、政治的、宗教的、人種的な宣伝活動を禁じる五輪憲章を尊重する姿勢が揺らぐことはないでしょう。



ジェンダー

## 全ての人 が、安心して 参加できる大会を目指す。

男女の参加のしやすさや、指導者・審判といった立場での男女比の差も課題のひとつ。競技によっては男性・女性の数に偏りがあり、コーチや審判員に占める女性の割合もまだ不十分です。近年は、男女混合種目の導入や女性選手の参加拡大など前向きな取り組みが進んでいますが、性別の扱いに関する議論など未解決の問題もあり、継続的な活動が求められています。選手や指導者、経営層の女性比率向上を目標とした行動計画を実施し、意思決定への参加を促進するなど、全ての人々が安心して参加できる大会を目指して、多様な施策が進行中です。

## 経済

# クリアで計画的な財政運営で、 持続可能性を高めていく。

大会開催費用の高騰や長期的維持費の負担が課題です。東京2020大会のように、当初の予算を大幅に上回るケースもあり、施設の活用・スポンサー依存の構造・地域経済との整合性に配慮した計画が求められるようになりました。透明性や説明責任も強化し、施設の長期活用を重視した持続可能な財政運営が推進されています。

## 環境

# 閉会后まで見据えた配慮で、 地域の未来まで考える。

競技施設の建設による自然への影響や、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスが増えちゃうことも、問題として顕在化。そのため、最近の大会では環境にやさしい運営がとても重視されるようになってきました。例えば、既存施設の活用や再生可能エネルギーの活用、資源を無駄にしない工夫などが推奨され、大会後も地域の環境を大切にできるように整備することが求められています。温室効果ガス削減やエコデザインの導入、環境イノベーション表彰などで持続可能性を高める取り組みもその一環です。



## ドーピング

# 安全性と公平性の確保を徹底し、 クリーンな大会であれ。

薬物使用による競技の公正性の侵害も課題のひとつです。国家的ドーピング問題（2014年、ロシア）や他の違反が示しているように、検査体制、教育、倫理意識の向上が不可欠で、競技者の安全と公平性を守る枠組みの強化が求められています。具体的な対策として、独立機関による検査・教育・サンプル保存を通じ、クリーンな競技環境を確保する取り組みが進んでいます。

## オリンピック・パラリンピックの価値を、未来へ継承するために。

### — 課題解決に向けたアクション —

今後のオリンピック・パラリンピックは、大会のスリム化や既存施設の活用、地域との共生、多様性への対応、若者世代とのつながり、そして平和の追求といった社会的価値を重視した「開かれた持続可能な大会」へと再構築していくことが求められています。さらに、デジタル技術の進展によって、参加型・双方向型の新しい大会の姿も期待されています。

オリンピックはスポーツの枠を超え、「平和・友情・多様性・挑戦」といった価値を学ぶ場でもあります。人々がそれぞれの立場や関わり方でオリンピズムに触れ、未来の社会づくりに参加することの重要性が、これまで以上に強調されています。

オリンピックスポーツ文化研究所は、2015年の設立以来、本学のオリンピック・パラリンピック関係者へのインタビューや資料収集、研究を通じて、オリンピズムの継承に取り組んできました。2025年には『オリンピック・パラリンピックから学ぶ15のこと』（大修館書店）の出版、「オリンピック・パラリンピック概論」の授業を通して、学生へのオリンピズム教育をさらに推進しています。

# 研究最前線

from

大学院体育学研究科長  
体育学部教授

**関根 正美**

## オリンピックを哲学で読み解く 「観るスポーツ」から「するスポーツ」の思想へ

### Profile

大学院体育学研究科長。体育学部体育学科教授。オリンピックスポーツ文化研究所・元所長。平成8年に筑波大学大学院博士課程体育科学研究科単位取得満期退学、博士(体育科学)。岡山大学教育学部助教授、准教授、教授、兵庫教育大学連合大学院博士課程併任教授などを経て現職。専門は体育・スポーツ哲学。

### 身体運動が示す、 人間の「成し遂げる意味」

私の専門は、スポーツ哲学、体育哲学という領域です。これは体育学の中で体育原理を継承する分野であり、広く社会の身体運動の現象を哲学的に捉えることを目的としています。学校体育から生涯スポーツ、そしてオリンピックのような社会現象に至るまで、人間がスポーツを行う意味や、それが人間の生きる意味とどう結びつくかを追求しています。

一般にスポーツには、明るく力強いイメージがある一方、哲学には、陰気で小難しい印象が持たれがちです。しか

し、古代ギリシャの哲学者プラトンはレスラーであり、ソクラテスも陸上競技をしていました。彼らのように、知と身体は本来対立するものではありません。私自身が大学時代に卓球に打ち込む中で、なぜ人間は苦しい思いをしてまでスポーツに熱中するのか？スポーツを行う意味とは何か？という実存的な疑問を持ったことが、この分野に入るきっかけとなりました。5年に1度、世界中から5000人ももの哲学者が集まる世界哲学会議でもスポーツ哲学は注目され始めています。私は、青年期の競技実践から、老いやケガで身体機能が衰えたあともなお身体運動を求める心に至るまで、スポーツが人間にとって持つ本

質的な意味を探求しています。

### 「ホモ・ペルフォルマートル」としての人間

私の研究の中心に、ドイツの著名な哲学者で、1960年ローマオリンピックボート競技の金メダリストでもあるハンス・レンクがいます。彼は世界哲学会議の会長などを歴任し、国際的な哲学の舞台にスポーツ哲学のセクションを確立させた人物でもあります。レンクは人間観として、ラテン語で「ホモ・ペルフォルマートル」、すなわち「成し遂げる存在」を提唱しました。アリストテレスの「社会的存在」、ホイジンガの「遊ぶ存在(ホモ・ルーデンス)」、あるいは一般

## My Research Picks



### 関根研究室のデスク

資料や文献に囲まれた、日々の思索の拠点です。このカオスの中にアイデアの種があります。辞書を片手に、翻訳作業や学術論文の執筆を進めています。



### スポーツ哲学の軌跡(著書紹介)

これまでの研究成果として出版された主な著作と翻訳です。スポーツの本質について、哲学的に問い直すことを30年以上続けてきました。その長年の研究の結晶です。



### 思考の源泉となる本棚

研究室の壁一面に並ぶのは、古今東西の哲学書や専門書の数々。多角的な視点から研究を深めるための、先人たちの膨大な知識の蓄積がここにあります。

に知恵を持つ「ホモ・サピエンス(叡智人)」といった従来の人間観に対し、レンクは「何かを成し遂げようとするところにこそ人間の特徴がある」と定義します。彼は、この達成論を芸術や学術を含む人間の諸活動の基礎とし、その代表的な社会的実践例としてスポーツを取り上げました。このレンクの人間観から、オリンピックの価値や意味も、「人間が成し遂げる」という視点から解明されようとしています。

### 近代スポーツ批判を超えて

過去の思想家たちは、近代スポーツに対して批判的な視点を示してきました。例えば、アドルノはファシズム等の全体主義の歴史を踏まえ、スポーツを「肉体の機械化」と「権威への服従」を強いる不自由な領域だと批判しました。また、先ほども述べたホイジンガは、1936年のベルリンオリンピックの状況を見てか、「スポーツは遊びの領域を去っていく」と述べました。ヤスパースもスポーツを大衆支配の道具とみなし、人間が本来の自己を獲得する活動としては不十分だと指摘しました。

このようなスポーツ批判の系譜を踏まえ、レンクは近代オリンピックの創始者クーベルタンに注目したのです。クーベルタンがオリンピックのモットーとして提唱した「より速く、より高く、より強

く」という理念を、単なる競技結果ではなく、4年間という期間を目標に向かって生きる、成し遂げることの教育として高く評価します。その上で、現代の課題を踏まえた「より人間らしく、より美しく」の2つを付け加えるべきだと主張します。これは、際限のないパフォーマンス追求がドーピング問題などを引き起こすことへの警鐘でもあります。

### 「するスポーツ」が育む個人の力

AIの台頭や技術革新が進む現代において、判定や戦術立案はAIに代替されるかもしれませんが、自分の身体を制御し、複雑な試合の中で発揮される身体と精神の関係には、テクノロジーでは解明しきれない謎が残ります。また、スポーツは現代において「観る」「する」「支える(育てる)」活動として捉えられますが、私はスポーツを「観る」ことばかりを強調しすぎることは危険性を感じています。スポーツが単なる娯楽の対象に留まってしまうと、古代ローマのコロッセオのように、より激しく、よりスリリングな見せ物を求めるだけに終始し、それはアルコールのような一時的な憂さ晴らしの代償になりかねません。それでは、スポーツの持つ教育性や、人が自らの目標を達成しようと努力する中で自分を知り、自己を獲得していくという本来の意味が見落とされてしまいます。

部活動や地域スポーツを通じて「自分はどうかありたいか」という目標を掲げ、全力を尽くす「するスポーツ」の体験こそが、個人の力を育む上で重要なのです。AIが人間の仕事を代替する社会では、「自分がどうかありたいか」が深く問われることになるでしょう。だからこそ、目標に向けて身体を動かすスポーツを「する」という営みは、私たちがこれからの時代を人間らしく生きるための、大きなヒントになるのではないかと考えています。



気になる

# 研究室

ぞいてみた

PICK UP!!!



スポーツを多角的に解き明かす

# KIKULAB



体育学部 体育学科 教授

菊池 直樹

Profile

専門はストレングス&コンディショニング (S&C)、スポーツ遺伝学、運動生理学。筋力トレーニングと遺伝子多型の関連研究を中心に、スポーツ選手のパフォーマンス向上や高齢者の健康維持に貢献する研究を行っている。

教授



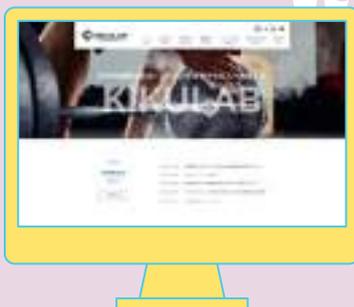
## KIKULAB(キクラボ)の特徴とは?

スポーツ遺伝学とトレーニング科学の2つの軸から、スポーツパフォーマンスに関わる遺伝的要因やトレーニング効果を解明する研究室です。遺伝子の違いによってトレーニングの効果がどう変わるのかを調べ、ケガのしやすさや個人の特徴が分かるようにしています。S&Cコーチ志望の学生やケガの再発経験から遺伝学に関心を抱いた学生が多く、スポーツ現場と研究をつなぐ学びが特徴です。また、公開講座などで研究の成果を広く紹介し、社会に役立てる取り組みもしています。

研究について意見交換する際には、批判的な視点を持ちながら、建設的に議論を進めるよう指導。研究対象を多様な角度から捉える姿勢を養っています。



WEB



スポーツ科学の最前線を発信する日本体育大学、菊池研究室「KIKULAB」。研究の詳細はぜひホームページをご覧ください。



KIKULABのことをもっと知ろう!

MOVIE



KIKULAB公式YouTubeでは、KIKULABの研究に関する各種動画、ゼミ内のイベントや普段の様子、トレーニングに関わる動画などを随時公開しています。



# 一味違う!? KIKULABで研究を行う学生たち

## ● コンカレントトレーニングに関する研究

体育学研究科 体育学専攻  
トレーニング科学コース  
博士後期課程 2年  
菊池 さやかさん



### 研究内容について

競技者として練習に励む中で、「トレーニングそのもの」に強い関心を抱くようになりました。現在は、筋力トレーニングときつめのインターバルトレーニングをどう組み合わせると1番効率的かを検討。競技力と健康づくりに役立つ研究に取り組んでいます。

### 特徴的なポイント

複数のトレーニングを同日に行う  
「コンカレントトレーニング」

トレーニング同士の相互作用を  
科学的に解明

普段の練習に役立つ実践的な  
トレーニング指針を確立

### 研究室の雰囲気について

研究活動だけでなくレクリエーション活動も積極的に行っており、学部・修士課程・博士課程の学生が関わり合える温かく明るい雰囲気が特徴です。メリハリをつけてお互い支え合いながら活動しています。



## ● 遺伝子多型とサプリメント摂取に関する研究

### 研究内容について

ウォーミングアップの一種であるレジスタンスプライミングとカフェインを組み合わせ、遺伝の違いに合わせたパフォーマンスの上げ方を研究しています。自分の競技経験も生かし、試合前に使える方法として科学的に分析。スポーツや健康に役立てたいと思っています。

### 特徴的なポイント

トレーニング戦略と  
栄養戦略の融合

プライミング戦略の幅を広げる  
可能性が高い研究

遺伝子多型の違いによって  
個別最適なプライミング戦略を目指す



体育学研究科 体育学専攻  
トレーニング科学コース  
博士前期課程 1年  
中村 勝太さん

### 研究室の雰囲気について

アクティブな研究室で、毎年富士登山を行っています。イベントも多く学部生から先生方まで年齢の垣根を越えて全力で楽しむことがKIKULABの最大の特徴です。



## ● 遺伝とケガ(ACL)に関する研究

体育学部 健康学科 3年  
清水 あいりさん



### 研究内容について

私は前十字靭帯を二度ケガした経験から「なぜ同じケガを繰り返すのか」という疑問を持ち、その原因に遺伝が関係しているのかを調べようとしています。将来は海外との比較研究や共同研究にもつなげ、競技者が安心してスポーツを続けられるよう、ケガの予防技術の発展に貢献したいと考えています。

### 特徴的なポイント

個人的経験と  
研究動機の直結

研究室の豊富な遺伝子データと  
解析実績から精度の高い検証が可能

研究による安心した  
競技環境づくりの提供

### 研究室の雰囲気について

カフェイン耐性やお酒の強さに関わる遺伝子の話で盛り上がり、「さすがALDH2 GG型!」と笑い合うなど研究内容と絡めた話が絶えないのがKIKULABらしさだと感じています。



現場こそ、大学の鼓動。  
日体大の「今」を知る。

# 大学の 現場 から



キャリアセンターの取り組み ～教職編～

## 確かなサポートが導く 教員採用試験合格への道

毎年多数の教員を輩出する日体大。その実績は、確立された合格ノウハウに加えて、一人ひとりの夢と現在地に合わせた「自分だけのサポート」に裏付けられています。あなたのかなえたい未来を現実にする、キャリアセンターの全貌を紐解きます。



### 教員を目指す全ての学生へ

STEP

1

毎年多数の合格者を輩出!

#### 日体大教職サポートの実力を知る

国公立・私立を問わず、全国へ教員を輩出している日体大。保健体育教員のみならず、特別支援学校教諭や養護教諭、小学校教員といった夢をかなえた先輩も数多くいます。一人ひとりを合格へ導く、キャリアセンターの確かな指導体制と実績の全貌をご紹介します。

2

[座談会]教員採用試験合格者×講師×キャリアセンター職員

#### 先輩の現役合格までの道筋を辿る

難関の教員採用試験で、東京都と愛媛県のダブル現役合格を達成した上岡さん。その背景には、講師やキャリアセンターによる手厚い支えがありました。合格者が語る試験突破の道のりと、夢をかなえる「日体大のサポート力」の秘密に迫ります。

3

対策講座・スケジュール

#### 自分に合った教職対策を考える

「何をすればいいかわからない」という悩みも、直前期の対策も。キャリアセンターがあなたの「現在地」を的確に判断し、その時々に必要な学びを導き出します。合格への道筋を描くため、あなたに合った対策を考えてみましょう。

毎年多数の合格者を輩出!

日体大教職サポートの実力を知る

キャリアセンターは、教員を目指す学生を全力でサポートします。

「個別面談」「各種ガイダンス」「資料閲覧」を柱とし、学生一人ひとりに応じた支援を行っています。「個別面談」では、「就活何から始めれば良いか分からない」「やりたいことがない」など、初歩的な相談から学生に適した職業や就職先等の具体的な相談まで受け付けています。また、企業・教員・公務

員それぞれに向けたガイダンスや講座を多数開催するほか、先輩方の貴重な選考情報や対策方法等の情報を常時閲覧できるようにしています。今、社会に求められる日体生像は、「人間の多様性を受け入れ、地球市民として各分野で活躍できるグローバルリーダー」だと考えています。どのような職

であっても学生がこうした日体生像を確立できるよう、全力でサポートしていきます。

キャリアセンター  
センター長  
佐藤 浩



■ 教員採用試験現役合格者数(令和7年度実施)

教員採用試験合格者

118名

(公立・私立含む)

公立【北海道・札幌市】《高校》1名／【岩手県】《中学校》1名／【茨城県】《小学校》8名・《特別支援》1名／【栃木県】《中学校》1名／【群馬県】《中学校・高校》1名／【埼玉県】《小学校》2名・《中学校》1名・《高校》3名／【千葉県・千葉市】《小学校》7名・《中学校・高校》1名／【東京都】《小学校・中学校・高校》43名・《特別支援》6名・《養護》5名／【神奈川県】《小学校》2名・《特別支援》4名／【横浜市】《小学校》3名・《中学校・高校》1名／【川崎市】《小学校》4名・《中学校・高校》1名・《特別支援》1名／【新潟県】《中学校》1名／【富山県】《中学校・高校》2名／【長野県】《小学校》1名／【愛知県】《高校》1名／【広島県・広島市】《高校》1名／【愛媛県】《中学校》1名／【福岡県】《特別支援》1名／【長崎県】《小学校》1名／【宮崎県】《高校》1名／【鹿児島県】《小学校》1名／私立《小学校》1名・《中学校・高校》2名・《高校》5名・《特別支援》1名

※令和7年12月26日時点でキャリアセンターに報告された情報に基づき作成しています。

合格先 **福岡県(特別支援)**



「笑顔にしたい」を原動力に  
吸収した助言を自信に変えた

介護等体験を通して「障害のある子を笑顔にしたい」と考え、特別支援教員を志望。人物試験対策直前講座では、本番に近い環境で先生方から多角的な助言をいただき、得るものが多くありました。様々な先生の考えを参考に、自分なりの言葉で面接や試験に臨めたことが、合格の理由だと考えています。

体育学部 体育学科 4年

楳原 大志 さん

合格先 **東京都(養護)**



「命の専門職」を目指して  
全力疾走した4年間

「教員採用試験現役合格」を目指した全力の4年間でした。日体教学舎では仲間と切磋琢磨。直前期は先生方の助言や対策講座など大学の支援を最大限に活用し、悔いのないよう試験と向き合いました。無事現役合格し、春からは養護教諭に。今後も前向きに努力を重ねていきたいと思ひます。

体育学部 健康学科 4年

武藤 花歩 さん

合格先 **横浜市(小学校)**



コートから教室へ  
子どもとともに喜び合える先生に

テニスのコーチを務めた経験から、子どもの成長に寄り添い、ともに喜びたいと考え、小学校教員を志望。教員希望者相談ブースでは元教育委員会の方に相談に乗っていただいたり、小論文や面接の指導をしていただいたりと、大変お世話になりました。今後は、子どもが安心して挑戦できる学級をつくってまいります。

児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科 4年

小林 幹大 さん

STEP

# 先輩の現役合格までの道筋を辿る

教員採用試験の倍率は地域によって異なり、特に地方自治体の試験を現役で突破することは容易ではありません。そんな中、見事に東京都および地元・愛媛県の教員採用試験に現役合格を果たした上岡凜太郎さん。その背景には、本人の並々ならぬ努力と、それを支え続けた「日体大教員

養成プログラム」、そして熱意ある指導陣の存在がありました。合格者である上岡さん、指導を担当した星越先生、そしてキャリアセンター職員の西口さんの3名にお集まりいただき、合格までの道のりと、日体大ならではの教員養成の強みについて語っていただきました。



講師  
星越 健一 先生

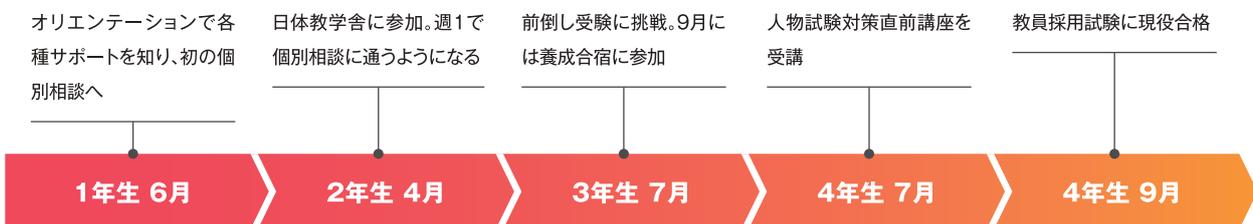
キャリアセンター職員  
西口 真琴 さん

愛媛県立松山中央高等学校出身  
上岡 凜太郎 さん  
体育学部 体育学科 4年

【合格先】  
愛媛県(中学校・保健体育) /  
東京都(保健体育)

Road to Success

## 》 上岡さんの合格までのロードマップ



## 教師を志した原点と 日体大で見つけた“本物の仲間”

**西口:**まずは上岡さんが教員を目指したきっかけと、日体大を選んだ経緯について教えていただけますか。

**上岡:**小学校時代の担任の先生がきっかけです。活発で叱られてばかりだった私に、先生は学級委員長などの役割を任せてくれました。おかげで仲間をまとめる面白さに気づき、リーダーとしての責任感が芽生えたのです。「自分も先生のように、一人ひとりの強みを引き出せる人になりたい」と思ったのが原点です。高校で進路を考えた際、身体を動かすのが好きだったこともあり、一生涯携われる仕事として保健体育教員への道が明確に。教員免許取得とスポーツの実践を両立できる日体大に進学しました。

**西口:**実際に日体大に入ってから印象はどうでしたか？

**上岡:**入学当初は、教員志望でない仲間との温度差を感じたことも。しかし、日体教学舎や教員養成合宿といったプログラムに参加し、私以上に高い志を持った仲間に出会うことができました。切磋琢磨できる本物の仲間に出会えたことが、日体大に来て良かったと思える一番の理由です。

**星越:**アスリート、教員など、日体大生の多くは、将来について明確な目標を持っていますが、入学当初はどう動くべきか悩んでいる学生も多い。だからこそ、我々講師が行動のきっかけとなる多彩なプログラムを用意しています。学生にはぜひ、上岡君のように早い段階でプログラムを活用し、同じ志を持つ仲間がいる環境に飛び込んでほしいです。友人が目の色を変えて勉強している姿を見て、自分もスイッチが

入る。そういった環境が日体大には整っていますし、それが合格への第一歩になります。

**西口:**先生方の指導やサポートが実を結び、全国の公立私立学校の保健体育教員には多くの本学出身者がいます。その実績が学生たちの自信にもつながっていると聞きますよ。本学の教員養成プログラムの特徴は、「1st Stage(基礎)」「2nd Stage(応用)」「3rd Stage(実践)」の段階別に分かれていること。上岡さんはこれらをどのように活用されましたか？

**上岡:**大学が用意しているプログラムのほぼ全てに参加しました。特に印象に残っているのは、「2nd Stage(応用)」にあたる「教員養成合宿」です。実際の試験のように小論文や面接を行った際、自分の実力不足を痛感。夜まで一人で「どうすればいいんだ」と悩み、考え抜いた経験が、その後の学習の原動力に。早い段階で自分の現在地を知り、悔しさを味わえたことが、合格につながったと感じています。

## 「チーム支援」で伴走する 戦略的学習とメンタルサポート

**西口:**プログラムへの参加と並行して、星越先生をはじめとする講師陣の個別指導も活用されていたそうですね。具体的にはどのようなプロセスで学習を進めていったのでしょうか。

**上岡:**私にとって、キャリアセンターの教員希望者相談ブースは第二の教室でした。1年生の6月に初めて相談に伺い、アドバイスを受けて、まずは基礎固めに専念することに。2年生の4月、「日体教学舎」への参加と同時に、週1回のペースで相談ブースに通い始めました。星越先生をはじめ、相談員の方々



はそれぞれ専門や視点が異なるため、複数の先生に相談しながら学習計画を常に修正し続けました。

**星越:**上岡君は本当によく来てくれましたね。私の指導は、まずマインドマップで目的達成の道筋を可視化することから始めます。そののち、合格へのプロセスとして3つの手順を踏みます。1つ目は、相手を知ること。自治体の出題傾向を過去問から徹底分析します。2つ目は、自分ノート作り。資料を読み込み、重要事項をまとめた自分だけのノートを作成し、さらに自分で模擬問題を作る。これを繰り返すことで学びの質を高めます。3つ目は、スケジューリング。個人で集中する学習と、仲間と問題を出し合う集団学習を効果的に組み合わせる。上岡君は、このプロセスを忠実に実行していました。

**西口:**我々職員も、学生一人ひとりの頑張りや後押しするため、体育科研究室が作成している「実践編冊子」の活用を促したり、過去問の閲覧環境を整えたりしています。上岡さんはそういったツールもうまく活用されていたね。ただ、長い受験勉強の中では、どうしても気持ちの浮き沈みもあると思います。そういったメンタル面でのケアについて、印象に残っていることはありますか？

**上岡:**星越先生の「厳しさ」に救われた経験です。3年生の7月に、前倒し受験で東京都と地元・愛媛県の両方を受験

し、第二志望の東京のみ合格。「第一志望は落ちたけど、もう東京に決めていいかな」と揺らぎそうになった時、星越先生に「軽い気持ちでは合格できないよ」と諭していただきました。

**星越:**よく覚えています。指導においては、「心に寄り添う」ことを大切にしていますが、上岡君のように力のある学生が慢心しそうな時は、あえて厳しく接することも必要です。

**上岡:**あの一言でスイッチが入り直しました。「絶対に愛媛も合格する」と腹を括り、そこからは猛勉強。もしあの時、優しい言葉だけをかけられていたら、今の結果はなかったかもしれません。相談員や職員の方々から温かい言葉をかけていただいたことも、大きな支えになりました。

**西口:**そう言ってもらえて嬉しいです。キャリアセンターの相談員は常に情報を共有し、学生をチームで支える体制。学生の性格や環境を踏まえ、現状に合わせて最適なアプローチを検討し、センター全員で伴走することが私たちのポリシーです。

**努力が90%、運は10%**  
**「学校の柱」として活躍するために**

**西口:**見事、目標を達成された上岡さん。これからは教壇に立つ側になります。どのような教員を目指していますか？

**上岡:**生徒一人ひとりに親身に寄り添



い、隠れた良さを見つけ、自信を持たせられる教師です。また、学び続けていきたいと考えています。教員になってからが新たなスタート。現状維持で満足せず、生徒のために何ができるかを常に考え、アクションを起こし続ける教員でありたいです。

**星越:**素晴らしい志ですね。私は常々、学生には「現場のリーダー、柱として活躍してほしい」と思っています。そのためには、教育への使命感と情熱を持ち、人間性と専門性を磨き続けること。教員採用試験合格のコツについて聞かれるたび、私は「本人の努力が90%、後の10%が時の運」と答えています。どれだけ我々がサポートしても、最後に道を切り拓くのは本人の努力。上岡君はその90%をやり遂げたからこそ、運も味方につけたのだと思います。

**西口:**「90%の努力」という言葉、重みがありますね。最後に、これから教員を目指す後輩たちへメッセージをお願いします。

**上岡:**「教師になる」という強い気持ちを持ち続けること、そして日体大の充実したプログラムを使い倒すこと。同じ夢を持つ仲間との出会いは、試験だけでなく、教員になってからも大きな財産になります。皆さんもぜひ、仲間とともに頑張ってください。

**星越:**「先生っていいな」という憧れを、現実にするためのプランを立ててください。夢は、具体的な計画と行動があれば必ずかないます。もし途中で心が折れそうになったら、いつでもキャリアセンターに来てください。私たちが全力でサポートします。

**西口:**キャリアセンターでは、経験豊富な相談員がチームで学生をサポートしています。「何から始めたらいいかわからない」という段階でも構いません。上岡さんのように、1年次の早い段階で一度足を運んでみるだけでも、その後の大学生活が大きく変わるはずです。教員を目指す夢はもちろん、別の道に進むとしても、私たちは皆さんの背中を押します。



## 対策講座・スケジュール

### STEP

先輩に続いて合格をつかめ!

# 自分に合った教職対策を考える

日体大が考える「キャリアデザイン」とは、学生一人ひとりが「自分はどうか生きるか」を考え、未来への設計図を描き、自らの足で社会を生き抜くこと。本学キャリアセンターでは、将来の夢探しから目標への伴走まで、個々の

状況に応じた支援を行っています。プログラムを通じて自分に合った教職対策を考えるとともに、激動する社会を生き抜く力を養い、自分自身の望む生き方を叶えましょう。

#### 教員希望者相談ブース



教員養成プログラムの中核として各講座と連携。教員希望の在学学生や卒業生にあらゆる支援を行うことを目的とし、講師が一人ひとりに合わせた試験対策、学習相談などのサポートを行います。さらに、ミニ講座等のイベントを開催し、教員希望者の学習意欲の向上を図ります。

#### 教員養成合宿



教員採用試験で実施される面接や集団討議などの人物試験対策を行う2泊3日の合宿です。人物試験はテクニックだけでは合格できず、知識と自分の中の「教師像」の確立が重要です。本講座では教育課題等についての理解を深め、その解決の在り方を学習。また、互いに高め合い、応援し合える仲間をつくります。

#### 日体教学会



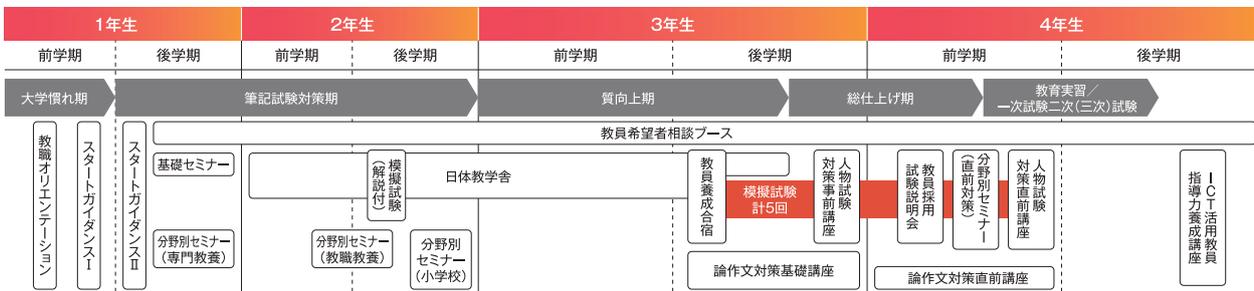
日体教学会とは、小学校教諭、中・高等学校保健体育科教諭、養護教諭、特別支援学校教諭を目指す学生や卒業生が集い、互いに切磋琢磨し、学び合うための場です。現場で即戦力として活躍するための「教師力」を養成します。

#### 教員採用試験 人物試験対策講座(事前・直前)



全国の自治体で実施される教員採用試験の二次試験の内容について対策を行います。多くの教員採用試験受験者の指導に携わってきた、本学卒業生を中心に講師を招聘し、本番前に集中的に行うことで合格につなげます。

### 対策講座開催スケジュール [令和7(2025)年度教員養成プログラム受講モデル(1年生スタート・フルコース)]



#### 一般企業就職を目指す人へ

令和6年度の企業就職決定率は97.9%。部活動等で培った忍耐力やリーダーシップは社会で高く評価されています。また、大学・同窓会・保護者が連携する独自の支援体制も大きな強み。筆記・面接対策や講座に加え、各地での卒業生講話や懇親会など、三者が一体となり学生の夢を強力に後押し。教職以外の道も万全の体制で支えます。

詳しくはこちら ▼



FUKA  
MOCHIZUKI

卒業生

望月  
風歌

平成31年度体育学部卒業  
現在東急電鉄株式会社に勤める



ぶつかることで、組織は強くなる。  
殻を破った成長が、未来を開いた。

さまざまなフィールドで  
輝く「日体人」を紹介!

# “日体

学びの現場で挑戦を続ける在学生、  
そして多彩な分野で活躍する  
卒業生たちを紹介します。  
それぞれの経験や想いには、  
この学び舎で育まれた価値観と  
情熱が息づいており、  
きっとここに未来を描く  
ヒントがあるでしょう。



幼い頃から体を動かすことが好きでした。習っていたダンスの練習を通じて、体を動かす楽しさや喜びを伝えたいという思いが芽生え、いつしか「体育教員を目指そう」と思うように。その思いは変わらず、日本トップの体育大学である日体大への進学を決意しました。

大学では、統率が執られた組織の魅力に引き込まれ、少林寺拳法部に入学。部活動を運営する立場を任せられると、部員と意見がぶつかる場面も経験しました。高校生までは「自分は何も言わずにその場が収まるなら」と思っていたのですが、お互いにきちんと話し合うからこそ、組織に建設的な相乗効果が生まれることを実感。自分の意見を伝えられるようになったことは、部活動を経た私の大きな成長だったと思います。

部員のための組織運営に尽力した経験を通

じて、これからも誰かのための「当たり前」の環境を支えられるような仕事に就きたいと考えるようになりました。その思いを実現できる職業として、毎日の安全と安定を支える鉄道業界に惹かれ、体育教員から志望を変更。もともとの責任感の強さや、部活動で得られたコミュニケーション力や自ら率先して動く力は、実際の仕事で大いに役立っています。

日体大で過ごした日々は、私にとってかけがえのない時間です。全国から集う志高い仲間との出会いが皆さんにとっても人生の財産になると信じて、頑張ってください。

# DI

# 本魂”



HIROYUKI  
TAKI

在  
学  
生

瀧 博行

スポーツマネジメント学部 4年  
今年度 深沢寮委員長を務める



— 深沢寮を率いた日々  
伝統をつなぐ覚悟と矜持を背負って



小学生から続けてきた剣道を、レベルの高い環境で正しく学び直したいと思い、日体大を志望。一方でビジネスにも関心があったため、スポーツとビジネスの両方を学べるスポーツマネジメント学部への進学を決めました。

普段は、約250名の男子学生が共同生活を送る「深沢寮」で生活しています。4年生からは、寮委員長に就任。寮の全体統括を担う上で大切にしてきたのは、まず誰よりも自分に厳しく過ごし、周囲に背中ですすこと。そして、厳しさの中にも愛を持って指導にあたることです。寮生とは密にコミュニケーションをとり、問題も話し合いで解決することを心がけてきました。100年以上続く寮の伝統を次代に繋ぐため、これからは自分の経験や失敗も含め、下級生にしっかりと仕事を教えていくつもりです。

挨拶、目上の人との接し方、相手への気配り、報連相など、「当たり前」の力を鍛えられたのは、規律と礼節を重んじるこの寮で生活したおかげだと思います。ここで身に付けたすべてを糧に、将来は優秀な経営者になるという目標に向かって、卒業後も全力で頑張り続けます。



## 主将としての奮闘記

— 剣道日本一という夢に向かって



HARUKA  
MATSUMOTO

在  
学  
生

松本 開花

スポーツ文化学部 4年  
今年度 剣道部女子主将を務める

「剣道で日本一になりたい」。その強い思いが、日体大を選んだ理由です。全国トップレベルの仲間が集う環境で、どこまで自分を高められるか試したいという気持ちもありました。

入学後待っていたのは、期待通り自分と同じように高い志を持った仲間がいて、互いに切磋琢磨しながら技術を磨く刺激的な日々。主将を任されてからは、仲間の表情やコンディションをよく見て、みんなが集中して稽古に励める環境づくりも意識してきました。稽古前後に課題点や目標を共有したり、意見を出し合ったりする時間を設けることで、士気を高め、全員が同じ方向に向かって努力する雰囲気を作ることができたと感じています。苦しい時期も仲間と乗り越え、ついに日本一を掴んだ瞬間の喜びは、今でも忘れられません。「全員で勝ちたいからこそ、全員で強くなる」。その思いが、最後まで私の原動力になっていたと思います。

主将として奮闘した経験を経て、剣道の技術だけでなく、人間としても成長することができました。目標に向かって粘り強く努力する力やチームをまとめる力、逆境を乗り越える力を自信に変え、将来も前向きに歩んでいきたいです。

# NIA

Info.



## 第62回 体育研究発表実演会を開催しました

「第62回体育研究発表実演会」が、石川県いしかわ総合スポーツセンターにて開催されました。学生が日頃の学修成果を演技として発信し、体育の価値と可能性を社会に伝える本行事は、62年の歴史を重ねてきました。今年は「TOGETHER+(プラス)」をテーマに、ともにある力とその先の希望を表現。日本航空高等学校石川の皆さまにもご出演いただき、復興途上にある地域へ、元気と笑顔をお届けする実演会となりました。



Info.

## 2

# 日体大フェスティバル2025 大盛況のうちに無事閉幕

「第58回日体フェスティバル2025」が、3年ぶりに横浜・健志台キャンパスで開催されました。新校舎完成という節目の中、テーマ「PASSION(情熱)」のもと、学生一人ひとりの思いが形となり、キャンパスは熱気と笑顔に包まれました。多くの来場者とともに創り上げた2日間は、日体大らしいエネルギーと一体感を改めて感じさせる時間となりました。



## 学報 日體大 のご意見をお聞かせください

学内広報誌『学報日體大』は、第81号より大幅にリニューアルいたしました。日体大アスリートの活躍に加え、本学の研究活動や社会貢献、学生生活の様子など、多彩な企画をお届けしてまいります。より良い広報誌をつくりあげていくために、皆さまからのご意見やご感想をぜひお寄せください。アイデア次第では、あなたの企画が誌面に採用されるかもしれません。

右記QRコードからお気軽にご回答いただけます。今後の誌面づくりに、ぜひご協力お願いいたします。



Let us know what you think



スポーツの世界で活躍する在学生・卒業生の姿から、研究活動の最新ニュース、イベント情報まで——日体大で巻き起こる躍動の日々をリアルタイムでお届けする「News & Topics」。在学生・卒業生・教職員たちの挑戦はもちろん、

地域や社会とのつながりを広げる活動など、多彩なニュースをご紹介します。本学に関わる人々の熱意と成果を、タイムリーにお伝えするこのコーナーを通して、日本体育大学の「いま」を感じてください。

## 激走! 富士山女子駅伝&箱根駅伝

### 富士山と箱根で躍動 日体大駅伝の新たな一歩

令和7年12月30日に開催された「2025全日本大学女子選

抜駅伝競走(富士山女子駅伝)

に引き続き、令和8年1月23日

に出場し、10位(2時間28分44

に行われた「第102回東京箱

秒)の結果を収めました。力強

根間往復大学駅伝競走(箱根駅

伝)では、往路を16位(5時間30

分04秒)、復路を9位(5時間26

分38秒)とし、総合成績は15位

がとつございました。

(10時間56分42秒)という結果になりました。特に復路では区間ごとに力走を見せ、総合順位を大きく上げる走りで多くの応援を受けました。

沿道での応援にご協力をいただきました。同窓会、保護者会、関係者の皆さまにおかれましては最後までご声援をいただきありがとうございました。



Nippon Sport Science University

## 日本体育大学 公式アプリ



日体大の最新情報をGETしよう!

- プッシュ通知でお知らせ
- 限定フォトフレーム
- 食堂メニュー
- n-pass ログイン



🔍 日体大アプリで検索

